

サンパウロ大学への協定校留学 月例報告書（7月分）

先月の月例報告書で最後かと思っていたら、もう一か月分ありました😅 今月は、ブラジル最後の月だったので、友達との時間を過ごすことを優先した生活をしていて、過去で一番外出していた時期だと思います。心の準備は2か月前くらいから整えてきていたので、受け入れられないほどの辛さではありましたが、帰国当日まで、本当に帰ることが信じられずに毎日と同じような生活を送っていました。荷物の準備や友達への手紙などは家を出る10分前に終わり、ドタバタの出国準備でした。

Surpresa de Até logo & Festa do nada

私と同じ日に帰国する日本人留学生と一緒に、お別れパーティーを3回に分けて開催しました😊 1回目はサプライズで友達が開催してくれて大学の広場でケーキと食べ物が用意されていました。この日は友達とご飯に行くだけだと思っていたのですが、大学に連れていかれて、場所に着くと、これまで一度に集まったことのない人数の友達が待っていてくれました。初めは、何が起きているのか状況の処理ができず体が固まってしまいましたが、そのあとは友達との時間を楽しむことができました。しかし、このサプライズをきっかけにもうすぐ帰るんだという実感が湧き、一緒にいられる時間の一秒一秒を大切にしていこうと考えるようになりました。

ブラジルではパーティーを開催するためには自分たちで予定を立てなければいけないため2回目と3回目は私たちが主催しました。しかしパーティーの計画をすることに慣れていなかったため、ブラジル人の助けをたくさん借りて充実した会にすることができました。もう一人の留学生のやり残したことに誕生日会があったので、サプライズでケーキと飾りつけを用意し、お祝いをすることができました！一日中パーティーをしていたので、人の出入りが激しく、全員が揃っている時間はありませんでしたが、多くの会いたい人たちと最後の思い出をつくることができ、とても幸せでした💖





Festival do Japão



一年に一回3日間にわたって行われる、世界で最大級の日本祭がサンパウロで開催されました。47都道府県の県人会が各屋台で名産品を販売しているだけでなく、ブラジルに会社を持つ日本メーカー企業やアニメのグッズなどの販売をしていました。私はボランティアとして県人会や会場のお手伝いをさせていただきました。来場者には日系ブラジル人の方が多かったですが、日系ではないブラジル人もかなりいて、日本文化が親しまれていて広くブラジル社会に受け入れられていることが見受けられました。ただし、日本のもので溢れかえっていても雰囲気は、ブラジルのままで、日本らしくないという印象を受けたことが不思議な感覚でした。



Famílias do Brasil



私がブラジルに興味を持ったきっかけでもある、「家庭の温かさ」を友達の家で招待されて、再び感じる事ができました。どの家を訪れても、お母さんたちは包容力のあるハグで迎えてくれて、会話をしたり食事をしたりして、帰るころには「ここはあなたの家で、いつでも扉は開いているからね」と言ってくれます。こんなにも自分の子どものように扱ってくれて、愛を直に感じることは日本ではなかなかないと思います。友達のお母さんから、何もなくても愛だけは与えることができると言われたことは一生忘れられません。私が出会った人たちは全員と言っていいくらいホスピタリティーに優れていて、日本とはまた別の種類の他人を思いやる気持ちを持っているため、見習って習得していきたいです。



今月の報告書が、本当に最後のものになります。初めから最後まで、楽しいこともあれば辛いこともありましたが、常にそばにいてくれた大好きな友達や家族のおかげで1年間自分らしい留学生活を送ることができました😊 ブラジル留学を通して得たことは一生に一度のとても貴重な経験であり宝物です！